

科目名	異文化理解	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Cross-cultural Understanding	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	はんだ さちこ	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	半田 幸子	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	グローバル社会への理解を深めるための基礎固めとして、異なる文化を理解する素地を養う。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 文化の概念を始めとする、異文化理解に必要とされる基礎的な知識。 2. 異なる文化的背景を持った他者との関わり方について考える力。 3. 異なる文化を理解しようと努力する姿勢。				
授業概要	教科書に基づき、異文化を理解する上での基礎概念を学びます。と同時に、異文化を理解することの難しさ、問題点などをより深く理解するために、適宜、映画鑑賞を通して擬似的に体験し、異なる文化的背景を持った他者との関わり方について思考を巡らし、理解を深めます。				
授業計画（以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の学習状況によっては変更することがあります。）					
第1回	ガイダンス（授業概要説明等）				
第2回	プロローグ 異文化コミュニケーションを学ぶということ				
第3回	第1章 異文化コミュニケーションの基礎概念： 1. 文化について 2. コミュニケーションについて				
第4回	第1章 異文化コミュニケーションの基礎概念： 1. 異文化コミュニケーション 2. 重要キーワード				
第5回	第2章 自己とアイデンティティ 1. 自分を映す鏡としての自己像 2. 社会・文化的アイデンティティ				
第6回	第2章 自己とアイデンティティ 3. 多文化社会と多面的アイデンティティ				
第7回	映画鑑賞 ①『トランスアメリカ』(Transamerica, 2005 年、アメリカ) <前半>				
第8回	映画鑑賞 ①『トランスアメリカ』(Transamerica, 2005 年、アメリカ) <後半>				
第9回	第3章 異文化コミュニケーションの障壁 1. 障壁の種類 2. 偏見・ステレオタイプはなぜ生まれるか				
第10回	第3章 異文化コミュニケーションの障壁 3. 偏見の消滅に向けて				
第11回	映画鑑賞 ②『ホテル・ルワンダ』(Hotel Rwanda, 2004、南アフリカ・イギリス・イタリア) <前半>				
第12回	映画鑑賞 ②『ホテル・ルワンダ』(Hotel Rwanda, 2004、南アフリカ・イギリス・イタリア) <後半>				
第13回	第4章 深層文化の探究 1. 文化的価値観の学習過程 2. 価値思考モデルと価値観の国際比較				
第14回	第4章 深層文化の探究 3. 思考パターンの文化比較				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 事前に教科書を読んで理解し、不明点を洗い出しておいてください。(週 1.5 時間程度) 2. 授業後に、該当箇所を改めて読み直してノートにまとめ、理解を深めてください。(週 1.5 時間程度) 3. 不明な箇所は、教員に聞いたり参考文献を読んだりすることで解消してください。(週 1 時間程度)				
履修条件 受講のルール	<受講上のルール> ・授業後の復習の習慣を身につけてください。 ・授業中の私語など、周囲の迷惑になる行為は厳に謹んでください。				
テキスト	石井敏、久米照元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013 年。				
参考文献・資料	青木保『異文化理解』岩波書店（岩波新書）、2001 年。 原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社、2013 年。				

	伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（改訂新版）、三修社、2007年。 ほか、適宜、授業内で紹介します。
成績評価の方法	【授業への取り組み（50％）、定期試験（50％）】 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・毎回の授業後に課すコメントシート提出の有無や内容の充実度は授業への取り組みの評価に含みます。 ※ 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日 15:00～ ※ これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	「異文化理解」の授業は、後期に開講される「異文化コミュニケーション論」の概論として位置付けています。後期開講の「異文化コミュニケーション論」では、より具体的で実践的なコミュニケーションの話に焦点を当てます。基礎概念の理解だけに留めず、実際のコミュニケーションに目を向けた「異文化コミュニケーション論」も合わせて受講することをお勧めします。 異文化理解の概念は、外国との関わりに限りません。異なる文化は、国内にいても、秋田県内、秋田市内にいても日常的に遭遇しているものです。まずは、「異なる文化」という概念についてしっかり学び、異文化を理解する上で前提となる知識および思考力を身につけましょう。